

| | |
|----------|--|
| 1 学校教育目標 | ところ豊かに たくましく生きる広野っ子の育成（自ら学ぶ学びのたのしきあふれる学校） ～ 豊かな心・確かな学力・健やかな体 ～ |
|----------|--|

| | |
|------------|---|
| 2 本年度の重点目標 | 社会的に自立する基盤の育成 ・基礎基本の定着と思考力・判断力・表現力の育成(知) ・命や人権を大切にす心、思いやりの心の育成(徳) ・体力や気力、自主性やリーダー性の育成(体) |
|------------|---|

3 自己評価結果(達成状況)【 A:達成している B:概ね達成している C:あまり達成していない D:達成していない 】

| 評価の観点 | 評価項目(取組内容) | 取組(達成)の状況 | 評価 | 改善の方策 |
|-------------|---|---|----|---|
| 学習指導(研推) | <p>○基礎・基本の確実な定着と個を伸ばす学習指導の充実</p> <p>○伝え合う力の向上</p> <p>○「つなぎ」を生かし、相互の学びを高め合う活動の充実</p> <p>○自ら学ぶ力 主体的に学ぶ意欲と態度の育成</p> <p>○教育課程特例校制度による「外国語活動」(小学1・2年生)</p> <p>○タブレットの活用(場面や課題に応じて、自ら活用方法を選択し、学習に生かす)</p> | <p>○基礎・基本の定着</p> <ul style="list-style-type: none"> 今年度より午後の学習前に毎日15分間の学習タイムを設け、反復練習や単元の復習に取り組み、基礎・基本の定着を図っている。 算数のスキルタイムでは、タブレットを用いたのタブレットドリルでも既習事項の反復練習に取り組み、基礎・基本の定着を図っている。 繰り返し学習等の指導方法を工夫し、漢字学習等、学習習慣や基礎基本的な知識や技能の定着に取り組んだ。 広野小ががんばり学習タイムを水曜日の放課後に実施することで、基礎・基本的な知識習得で課題のある児童については、外部指導者より基礎的な知識を身につけるよう時間を設定している。 <p>○伝え合う力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 伝え合うための「つなぎの山のぼり」を教室に掲示し、児童から出たことばを積み上げていくことで、児童が主体的に活用できるようにしている。 児童が伝え合う場を設定することで、自身の考えを深めたり他者と比較したりする機会を設けている。 タブレットを使用したり話し合う場を工夫することで、誰もが参加できるようにしている。 <p>○「つなぎ」を生かし、相互の学びを高め合う活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童がどのように「つないで」いくか、職員間で研修をおこない、共通理解している。 児童が今何と「つないだ」のか、教職員が価値付けることで、児童の学ぶ意欲を高めている。 ふり返りを重視することで、児童が誰とつながり、高め合ったのかを捉えられるようにしている。 <p>○自ら学ぶ力 主体的に学ぶ意欲と態度の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> 自主学習を取り入れ、児童自らが主体的に学ぶとする力を育てたり、学習計画を立てて取り組もうとしたりする態度を養っている。 各学年の自主学習を廊下に常に掲示し更新することで、どのようにまとめればよいかわかり、さらなる意欲につながっている。 <p>○教育課程特例校制度による「外国語活動」(小学1・2年生)</p> <ul style="list-style-type: none"> ALTと一緒に活動をして挨拶を練習したり、外国語に親しんだりする機会を設けている。 <p>○タブレットの活用(場面や課題に応じて、自ら活用方法を選択し、学習に生かす)</p> <ul style="list-style-type: none"> 体験活動などのまとも学習では、タブレットを利用して個人だけでなくグループなどで協働作業をして新聞を仕上げる等の活動をしている。 社会科等の調べ学習で自らが情報を収集する方法を選択し、得た情報を学習に生かす機会を設けている。 自らの学習レベルや挑戦したい内容に応じてプリントやドリルを選択し、学習に生かしている。 | B | <ul style="list-style-type: none"> 新学習システムとの連携によって、児童の実態把握や個に応じた指導の可能性をさらに広げていく。 学習タイムの取り組み方を見直し、児童の基礎・基本をさらに定着させるため、継続していく。 広野小ががんばり学習タイムについて、地域指導者の確保など、さらなる定着をはかる。 伝え合いや発表活動の方法を教職員間で常に共有することで、学習や児童の実態に応じた方法を適用できるようにしていく。 どう伝えればよいかわからない児童には、選択肢を用意したり書いて整理したりする等、少しでも意見を持てるように手立てをうっていく。 教職員が積極的に手本を示し、肯定的評価をおこなっていく。 児童の主体性を家庭学習で引き出せるよう、授業中に事例など学習モデルを示していく。 自ら疑問や課題を解決するためにどのような方法を用いれば良いか事例を示したり一緒に考えたりすることで、自らの学びに生かせるようにする。 外国語活動で学習した内容を友だちと共有したり保護者にも発信したりすることで、現段階の学びを家庭にも知ってもらうようにする。 タブレットを活用した学習方法を教職員間で共有し、まずは教師がタブレットを容易に活用できるようにする。 タブレットを活用した学習の事例を児童にも紹介し、自主学習などに生かせるようにする。 |
| 道徳・人権教育(人権) | <p>○よりよく生きる力を引き出す道徳教育の充実</p> <p>○特別活動や家庭・地域と連携し確かな道徳的実践の蓄積</p> <p>○地域人材や兵庫版道徳教育副読本を活用し、ふるさとを愛する心の育成</p> <p>○自己実現と共生をめざす人権教育の推進</p> | <p>○よりよく生きる力を引き出す道徳教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学年で内容項目や指導時期について計画立案した。さらに、生活目標や他教科と関連させて指導していくことで、道徳の時間に培った力を実生活に生かそうとする児童の姿が見受けられた。 人権月間では、人権標語や人権ポスターの掲示に加え、リモートで人権集会を開催し、人権作文の朗読を行うなど、全校生が人権について考える機会をもった。「思いやりの木」を作り、友だちの良い所を書いて掲示した。自尊感情を高めるために各クラスで、互いの良さを見つけ合う活動を行った。 特別活動や家庭・地域と連携し確かな道徳的実践の蓄積。 <ul style="list-style-type: none"> teamsを活用し家庭に道徳の学習活動を配信したことで、家庭でも人権について考える機会を持つことが出来た。 <p>○地域人材(コロナのため招聘できていなかった)や兵庫版道徳教育副読本を活用し、ふるさとを愛する心の育成。</p> <ul style="list-style-type: none"> 兵庫版道徳教育副読本の活用し、地域の伝統文化やふるさとを大切にす心の育成を意図した指導を行うことができた。 <p>○自己実現と共生をめざす人権教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 外国籍の児童が伝えたいことを、周りの児童が理解しようとして、身振りで伝えようとしていたりすることで、多文化共生を目指している。 | A | <ul style="list-style-type: none"> 道徳科の時間や人権月間だけでなく、日常的に人権を大切にすることを意識させる指導を継続して行う。 道徳ノートや振り返りカードの活用について、本年度の実践から見直し、授業の工夫・改善に努める。 校内の人権集会などの人権月間の取り組みについて、家庭と連携を図り、児童の人権感覚を高めていく指導を継続して行う。 郷土資料、兵庫版道徳教育副読本の活用を見直し、児童が、自分を取り巻く人や環境を大切にできるよう教材研究に努める。 地域の方を講師として招聘した研修をコロナの状況を見ながら継続させていく。 外国籍の児童と積極的に交流し、互いの違いを知り認め合っていく環境づくりをする。 |
| 健康・安全教育(安全) | <p>○生命の大切さを実感させる教育の充実</p> <p>○自ら身を守り、安全を確保する態度と実践力の育成</p> <p>○防災防災に対する教師の危機対応能力の向上</p> <p>○家庭・地域と連携した安全確保</p> | <p>○生命の大切さを実感させる教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症について正しい知識(差別や偏見の防止含む)がもてるように指導を行い、ソーシャルディスタンス、換気、マスクの着用、登校後の手洗いの徹底を行った。また、机の配置や特別教室での児童の座席を配慮し、感染状況に応じて指導方法を変え指導を行った。 道徳や保健で、自分の体や心を守る大切さの指導を行った。 <p>○自ら身を守り、安全を確保する態度と実践力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> 避難訓練までに、「明日に生きる」等を活用し、発達段階に応じた指導を行った。 1月のサイバー犯罪防止教室で、SNS上で知り合った人と出会ってはいけない、連絡をとってはいけない等、自ら身を守るための学習をした。 <p>○防災防災に対する教師の危機対応能力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 災害時に対応するために、スムーズな一斉下校や引き渡しができるよう、地区児童会の場所を見直した。 保護者や来校者についても名札の着用・検温・マスクの着用を呼びかけるとともに、来校者入口を一本化した。 <p>○家庭・地域と連携した安全確保</p> <ul style="list-style-type: none"> 「すぐる」を活用した欠席・遅刻連絡・健康観察の導入し、体調不良者の早期把握に努めた。 PTAの各地区委員等の協力を得、校区内の危険箇所の確認や登下校の児童の安全確保に努めた。 | A | <ul style="list-style-type: none"> 引き続き、感染症予防について正しい知識がもてるよう指導を行うとともに、生命の大切さを実感できる教育も行っていく。 想定を変え各避難訓練を実施していくこと、児童がより迅速に安全に避難できるよう研修し、継続的に指導していく。 情報モラルの意識を高めるために、タブレットのアプリ等を使用し、啓発を行っていく。 今後も、名札の着用、来校者の入口一本化を徹底していく。 地区児童会や各クラスで、登下校時のルールの指導を継続的に行う。 学校・家庭・地域が連携し、校区内の危険箇所の確認と注意喚起を行い、登下校の安全に努める。 |
| 生活指導(生指) | <p>○一人一人のよさを生かした学級経営</p> <p>○指導項目の重点化と具体化および保護者・関係機関との連携促進</p> <p>○児童の内面的理解を促進し、いじめ・不登校未然防止・早期発見・早期対応・早期解決</p> <p>○SC(市・県)等による教育相談体制の確立と組織的な指導の充実</p> | <p>○一人一人のよさを生かした学級経営</p> <ul style="list-style-type: none"> 「見守る児童の研修」を年に2回実施し、また、毎月の職員会議の時間を利用して配慮を要する児童について共通理解を図り、指導に生かすことができた。 毎月の生活目標について学級ごとに具体的な内容を話し合うことで、発達段階に応じて適切に指導することができた。 <p>○指導項目の重点化と具体化および保護者・関係機関との連携促進</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童会や各委員会が主体となって啓発活動を行うことで、児童の自発的な行動につながった。 6年生を対象にした、三木市ネットモラル教室を12月に実施した。また、3～6年生の児童を対象に、県警から講師を招いて1月にサイバー犯罪防止教室を実施し、情報モラルについての意識を高めることができた。児童の保護者の参加を呼びかけることで家庭への啓発を図ることができた。 <p>○児童の内面的理解を促進し、いじめ・不登校未然防止・早期発見・早期対応・早期解決</p> <ul style="list-style-type: none"> 心の健康観察を学期に1回ずつ行い、気になる項目に関しては個別に面談をするなどし、児童の内面的理解を図ることで指導に生かすことができた。 生活指導委員会の中で、問題行動や不登校児童に対する対応について検討し、また、全職員で共有することで共通理解のもと指導することができた。 不登校児童、不登校傾向の児童に対する対応について、不登校対策会議を立ち上げ、その都度、該当児童への対応策を練り、指導に生かすことができた。 <p>○SC(市・県)等による教育相談体制の確立と組織的な指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 問題行動や不登校についてSCや関係機関と連携を図りながら、保護者との相談や児童への指導にあたることができた。 | B | <ul style="list-style-type: none"> 児童会や各委員会と連携し、オンラインでの児童集会の場などで児童が主体となった啓発活動を行うことで毎月の生活目標の指導を促進する。 専門家を招いてスマートフォンやSNSの利用についての学習等を中学年、高学年を中心にを行い児童の情報モラルへの意識を高める。今後より保護者等参加型の啓発を呼びかけていく。 今後も児童の問題行動やいじめ・不登校児童への対応について全職員で共通理解し、SCや関係機関との連携を図りながら組織的な指導を継続していく。 あいさつ運動では、児童会活動を中心に啓発を続け、教職員が率先して取り組む。特に地域の方や来校者に対するあいさつについては家庭と連携・協力を継続しながら、さらに道徳等の教科と関連させることで重点的かつ継続的に指導する。(登校班への声かけ、模範となる児童を褒めること等継続) |
| 特別活動(特活) | <p>○児童が主体的に活動する特別活動の推進</p> <p>○一人一人が生かされ参画する学級会活動の充実</p> | <p>○児童が主体的に活動する特別活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> スマイル班活動では、学年を超えて他者理解をしながら協力的な活動ができた。 児童会・クラブ活動では、自主的に活動内容を考え、部員や学校のために活動することができた。 <p>○一人一人が生かされ参画する学級会活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 学級会活動では、よりよい学級づくりのためにそれぞれの課題について話し合い活動を行ったり、学級生活の充実を図るための主体的な組織を作って協力して活動することができた。 | B | <ul style="list-style-type: none"> 縦割り班活動を重ねる中で、異学年間で関わる機会が増え、相互理解につながった。今後さらにいろいろな形で交流の機会を考えていく。 委員会活動においては、児童が主体的に取り組みを考え活動している姿が見られた。さらに主体的な活動が増えるよう支援をしていく。 児童が主体的に学校生活をよりよくするための事柄について話し合いを有意義なものにしていくために、代表委員会の進め方や内容を検討していく。 |
| 特別支援教育(特支) | <p>○特別支援委員会による支援体制の確立および相談体制の構築</p> <p>○教員の専門性の向上と、個に応じた指導の実現</p> <p>○国際理解・多文化共生の推進</p> <p>○幼園小中連携教育の推進</p> | <p>○特別支援教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 一人一人の教育的ニーズに応じた「個別の支援計画」「個別の指導計画」を作成し、関係機関と連携しながら効果的な支援、指導を行っている。 支援を必要とする児童の実態把握や指導、支援内容の協議、見直しを定期的に行い、教職員間で共通理解を図っている。 <p>○国際理解・多文化共生の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 多文化共生教育の重要性を認識し、児童の国際化に対応する能力の育成を図っている。 <p>○幼園小中連携教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 幼園小や小中の連絡会を定期的に開き、学校園での取組や園児、児童、生徒についての情報交換をし、連携を深めている。 | B | <ul style="list-style-type: none"> 個別の支援・指導計画については、医療や福祉等の関係機関の情報を反映するとともに、評価や見直しを十分に行う。 児童の実態の状態を踏まえた教育課程編成や交流・共同学習などについて実践事例を収集、発信し、教育内容・方法の充実を図る。 多文化に触れる機会を増やし、国際化に対応する能力を育てるための授業の改善、工夫をしていく。また、外国籍児童の日本語指導についても校内体制づくりに努める。 連絡会や交流等で児童の共通理解を図り、連携を深めるとともに、特別支援学校や医療・福祉機関等からの専門的な助言を得る。 |

・評価の観点と質問項目との関連を図り、児童・教職員・保護者アンケートとの関連性を整理し、概ね適切に評価されている。

・アンケートの通知を目安としながら、児童の生活や学びの状況を分析し、実態に即した適切な評価であると考える。

| |
|---|
| <p>・評価は概ね妥当である。</p> <p>・コロナ禍2年目となったが、今年度も厳しい状況の中での学習指導での工夫した様々な取り組みがなされていると思う。この取り組みをマンネリ化せずに続けることで効果が出ると思う。</p> <p>・「一人一台タブレット」の効果的な活用について、教職員の指導技術の研修等も積み重ね、授業の中でも積極的に児童に活用させている。</p> <p>・学年により、また発達段階にもよるが、学級閉鎖や新型コロナウイルス感染症予防等により登校できない児童に対しても、可能な限り、オンラインで授業参加ができるようになされ、学力保障に努められている。</p> <p>・毎日15分の「学習タイム」を設け、基礎学力の定着を図る取り組みは効果的であると思われる。「継続する力」をつけることは、大切なことである。将来の選択肢が増えることにもつながると考える。</p> <p>・自ら学ぶ、主体的に学ぶ力の育成については、児童のアンケートの評価が低いことから、児童一人一人が学びを実感できる指導を今後も続けていきたい。</p> |
| <p>・評価は妥当である。</p> <p>・各学年ごとに計画立案され実施されていること、外国籍児童への配慮等、評価できる。</p> <p>・今年度もコロナ禍で、地域人材の活用もできない状況ではあったが、ふるさとを大切にす郷土愛を育てる学びを設定し、続けていきたい。</p> |
| <p>・評価は概ね妥当である。</p> <p>・保護者アンケートの「子どもは自分自身の健康に関心を持ち、体力づくりに努めている」の項目で、数値が低いが、コロナ禍で、運動等については積極的にできない状況であったことを加味したい。</p> <p>・児童の健康管理、感染予防対策、毎日の消毒作業等の実施に加え、緊急メール「すぐる」を利用して学校と家庭・地域の方との連絡ツールとして、これまで以上に児童の体調管理等が迅速に密にできるようになっている。</p> |
| <p>・評価は概ね妥当である。</p> <p>・運動会やひろジックコンサートなど数回でも行事等で、子どもたちの学びの姿を調節見れる機会が設けられてよかった。</p> <p>・地域では異年齢での遊びや交流が希薄になっている。異年齢での交流での普段見ることのできない子どもの良いところが発揮されるなど縦のつながりを今後も大切に続けていきたい。</p> |
| <p>・評価は妥当である。</p> <p>・児童一人一人に合った指導計画が立てられ、実践されている。</p> <p>・外国籍児童への配慮もうかがえる。今後も引き続きの指導や支援を願う。</p> <p>・今年度も各関係機関との連携を図りながら、学校長のリーダーシップのもと教職員の組織力を高める学校づくりをお願いし、特別支援学級の児童だけでなく全児童がバリアフリー化された教育活動の実践に期待したい。</p> |